

# 筑波実験植物園

筑波山の南に広がる筑波研究学園都市にあり、国立科学博物館が植物の研究を推進するため設立した実験研究植物園です。植物の多様性を知り、守り、伝えることを使命に、研究、保全、展示や学習支援活動を行っています。

## 園内のご案内

園内は、「世界の生態区」と「生命を支える多様性区」に分かれ、それぞれに屋外と温室（計4棟）があります。日本の代表的な植物、世界の熱帯や乾燥地に生育する植物、生活に利用する有用植物など、およそ3千種類の植物をご覧になれます。

### ■世界の生態区

さまざまな環境に生育する多種多様な植物が植栽され、地球上に広がる植物の多様性が見られます。屋外と3つの温室からなり、屋外は日本の温帯地方に広がる多様な植生を、温室は世界の熱帯や乾燥地の植生を再現しています。

#### ●屋外

- W1. 常緑広葉樹林区画：タブノキやシイ、カシのなかまの林。
  - W2. 温帯性針葉樹林区画：モミ、ツガのほか、スギ、ヒノキ、ヒメコマツなどの林。
  - W3. 暖温帯落葉広葉樹林区画：コナラ、クヌギ、クリのほか、ヤマザクラ、コブシなどの林
  - W4. 冷温帯落葉広葉樹林区画：ブナ、イヌブナ、ホオノキなどの林。
  - W5-6. 低木林区画：ヤマツツジ、ハコネウツギ、シモツケなどの低木。
  - W7-8. 砂礫地植物区画：河原や砂浜の砂礫地に生えるカワラサイコ、カワラハンノキ、ハマナシ、ハマゴウなど。
  - W9-10. 山地草原区画：野山や高原の草原に生えるキキョウ、ワレモコウ、ユウスゲ、オキナグサなど。
  - W11-12. 岩礫地植物区画：海岸や山地の岩礫地に生えるハマギク、イソギク、サンショウバラ、イブキジャコウソウなど。
  - W13. 水生植物区画：湿地や湖沼、河川に生えるハンゲショウ、ミズバショウ、アサザ、コウホネなど。
- クレマチス園は花期（通常5月）に公開しています。

#### ●温室

- A. サバンナ温室：アフリカ、アメリカ、オーストラリア大陸のサバンナや半乾燥地帯に自生する植物が見られます。
- B. 熱帯雨林温室：湿潤熱帯アジアの低地性と山地性の2室に分かれ、それぞれを代表する植物が植えてあります。これらA、Bの温室周辺は、それぞれの植生に関連した温帯の植物が見られます。
- C. 水生植物温室：熱帯の湿地や湖沼の水生植物とマングローブ植物が見られます。



学園東大通り

敷地面積 140,022㎡  
 図中の数字とアルファベットは  
 左右の説明文を示します。

- 水飲場
  - 手洗所
  - 飲物自動販売機
  - 食事可
  - パーキング
- 研究管理区域は公開していません。

### ■生命を支える多様性区

衣食住、観賞など、生活に欠かせない植物が利用別に植栽され、植物多様性の恩恵により私たちのくらしが成り立っていることが実感できます。

#### ●屋外

- H1. 温帯資源植物 東：食用となる山野草、果樹、材となるヒノキなど、衣食住に利用される植物の他、垣根植物、行事に利用する植物、文学に出てくる植物、科学史上の植物など。
- H2. 温帯資源植物 中央：香りの植物、バラコレクションなど。
- H3. 温帯資源植物 西：外国の果樹、薬用植物など。
- H4. 絶滅危惧植物：多様性が失われつつあることの象徴である絶滅危惧植物が見られます。
- H5. 筑波山の植物：古来より愛されてきた地元の筑波山に生育する植物が見られます。
- H6. シダ植物：日本からヒマラヤ地方に生育する暖温帯シダ植物。

#### ●温室

- D. 熱帯資源植物温室：湿度が高く雨量の多い熱帯に生えるバナナ、パイナップルなどの果物をはじめ、薬用、香料、観賞用などに使われる資源植物が見られます。

■プロムナード：樹形の美しいメタセコイア、セコイアおよびマロニエやトチノキの並木があります。

■中央広場：身近な植物、世界の水生植物、食虫植物、絶滅危惧植物が見られます。

■教育棟：見ごろの植物写真や、植物園から来園者むけメッセージのパネル展示があります。図鑑やアルバムを備えた図書コーナーやパソコンから植物の情報を得ることができます。

■研修展示館：植物の基本構造や植物に関する情報を展示解説しています。その他、植物の組織培養室、セミナー室、屋上には天体観望設備があります。